

No.014

# 練馬稲門会 練稲 Press

## いよいよニューイヤーコンサートの開催せまる！

今回で第16回を数える早稲田大学交響楽団（ワセオケ）によるニューイヤーコンサートは、練馬稲門会45周年記念行事として年明けの1月14日（土）、武蔵野音楽大学ベートーヴェンホールにて開催されます。

新型コロナの感染者数は依然として高水準にあるものの、ワクチン接種の進展に伴う重症化リスクの低下や、国内メーカーの治療薬使用開始などで状況の好転が期待されています。

今回のコンサートがコロナ禍からの脱却に向けたファンファーレとなるよう祈念したいところです。

この日のためにワセオケ団員は猛練習を重ねてきました。きっと皆さんの期待に応える演奏を披露してくれるはずです。

さあ、一緒にコンサートに出かけましょう！

### 七福神巡り1月8日に催行

新年の開運招福の行事として実施してきた七福神巡りは、これまでコロナ禍のため中断してきましたが、今回「羽田七福いなりめぐり」として3年ぶりに開催のことにいたします。実施要領は次の通りです。多くの皆様の参加をお待ちしています。

開催日：令和5年1月8日（日）

集合場所：京急空港線「糀谷駅」中央改札口13:00集合  
会費：500円（文書費）

コース概要：糀谷駅近くの東官守稲荷神社からゴールの穴守稲荷神社まで約2時間のコースを歴史ウォーキング部八巻部長の解説付きで歩きます。なお、引き続きコロナ感染防止対策は徹底願います。

参加申し込み：藤澤幹事あてメール又は電話で12/29までに必ずお申し込みください。  
メールアドレス mssh.fisw@gmail.com  
携帯電話 090-4391-7665



練馬稲門会 練稲 Press  
練馬稲門会設立45周年記念  
第16回 New Year's Concert 2023  
at ベートーヴェンホール  
2023年1月14日(土) 14:00開場 15:00開演  
指揮：曾我大介 管弦楽：早稲田大学交響楽団  
曲目：  
スメタナ/連作交響詩「我が祖国」より「ウルタヴァ（モルダウ）」  
ヨハン・シュトラウスⅡ世/皇帝円舞曲…など  
出演：ソプラノ/高橋 維

### 新春の集い(2/12)

コロナ禍の中で長らく自粛を余儀なくされてきた集会ですが、ようやく会員が再会する機会が訪れました。2023年新春の集いを次の通り開催します。皆さんお揃いでお出かけください。

1. 日時 2月12日（日）17:00
2. 場所 練馬区立区民・産業プラザココネリホール
3. 演目 落語 古今亭志ん雀（H14文卒）  
上方唄 松浪千紫（H17人科卒）
4. 会費 4,000円（弁当・飲み物付き）当日受付にて

なお、当日同会場にて15:00から山歩き会主催による次の講演会が行われます。新春の集いに併せてご参加ください。

「ミスター富士山が語る富士山の楽しさ、怖さ、奥深さ」  
講師：実川欣伸氏（富士山登山歴2,000回超の鉄人）

またココネリイベントコーナーでは、練稲会員による「第2回練稲作品展」が開催されます。  
13:00～終日（絵画、写真、書、陶芸など）  
こちらも、ぜひご鑑賞ください。



紅葉に囲まれた高麗川にて

## 山歩き会

会の名称を、山登り会とか登山会ではなく、山歩き会としたところに、会の特色というか先輩方の思いが込められています。2010年6月1日、高尾山の頂上で山好きの9人が考え方をまとめ、当会を発足させました。

目的を「山歩きを通じて、自然に親しむとともに、会員の健康増進と、会員相互の親睦を図ること」としました。山歩きだけでは満足しない。会員の健康増進と親睦の実現を重視するという発想、狙いがありました。

設立から12年経過し、コロナ禍で2年間の活動自粛期間はありましたが、山行の実施はこの11月で140回を数え、発足時の考え方は、会運営の基本として定着しています。

ですから毎月1回の山行会は黙々と登り、黙々と下山して終了、という会ではありません。山でのお弁当の時間も、極めて重要な親睦の場です。計画を立てる際にそれぞれの回のリーダーは、昼食の場所をコースのどこに設定するか、かなり気を使います。

毎月第1水曜日の夜6時に開催する全員参加の例会は山行

候補地の審議を含め色々活発な意見交換の場となります。この例会の前後は、会員相互のおしゃべりに花の咲く時間でもあります。会員は50人。うち20人が女性です。毎月の山行会参加者数は、コースの難易度などで違いますが、概ね男女が拮抗することが多いようです。

企画、会計など今期の執行役員は男女各5人の構成です。稲門会会員を主体とする会の性格上、年齢構成も、体力もマチマチであることは避けられません。その中で「全員参加型」を目指しつつ、山行きのコース設定に工夫を凝らすことが大事になっています。

スポーツの多くは、自分の力を全て出し切ることが求められます。しかし山歩き、山登りは、常に体力を温存し、余力を残しての計画終了を良しとする性格が根底にあります。

新入会員の入会をお待ちしています。(部長・久保庭啓一郎)



## ゴルフ部会 ゴルフは楽しい!

本年度(令和4)より、ゴルフ部会長を務めさせて頂いております三宅です。

当ゴルフ部会は、中島晴喜氏(商33年卒)創設のもと、今年で約30年近く続く練馬稲門会では最も古く、70余名の会員数を誇るサークルです(中島先輩は現在もエージシュートを何度も達成され元気にプレーされています)。

“ゴルフ好き”の幹事スタッフにより、例年、前期3月~6月、後期9月~12月の毎月1回のコンペを実施し、約30名近くの方が参加されています。また、夏季(7~8月)&冬季(1~2月)には交流塾と銘打って区内近隣ゴルフ練習場でレッスンプロによる練習会を開催し、1年を通じて活発な活動をしています。

当部会のコンペ開催日は、歴代の部会長の“晴れ男”神話により、ここ数年一度も雨に降られずお天気に恵まれスコアはともかく、皆さん気持ちよくプレーされています。新部会長の当方も今のところ、この伝統を維持しております。

今年は、約8名の方が入会され、老若男女(まだ年齢層は高

め?)楽しく、緊張感をもってプレーを楽しんでおられると思います。特に女性メンバーも増え、レディース杯も開催できるようになりました。

こうした活動は、部内の広報スタッフにより、「ねりとろGOLF」のタイトルで年2回発行しております。

毎年12月は、その年度を納めるコンペ終了後に総会&忘年会を実施し、一年を締めくくります。

幸いにも、このコロナ禍にあっても、参加者皆さんの感染予防のご努力、またゴルフ場の対策等により一人の感染者も出ずに、今年も終了予定です。

ゴルフは、生涯スポーツの一つとして、年齢を問わずまた1年を通して楽しめるスポーツだと思います。

当ゴルフ部会も、年齢・男女問わずまた、初心者からベテランの方々の入会をお待ちしております。(部長・三宅 成嘉)



## エッセイ同好会

「エッセイ同好会」というと、練馬稲門会では最も知的なサークルといわれることがある。だが、もちろん“痴的”ではないが、さほど知的であるとの自覚はない。

この会は今から18年前の2004(平成16)年6月、当時の塩田事務総長の発案で内藤雄幹さんを発起人としてスタートした。その時のメンバーはほかに江藏忠道、岡本龍蔵、田村公雄、古内啓毅、本田一、柳洋子の各氏であった。この方々の大半は現在も有力会員として健筆を振っている。

早稲田は著名な文筆家を多数輩出してきた大学であり、それを誇りに思うと同時に、自分でも素人ながら何か書いてみたいという方々もいるのではないかと。1人だけではなかなか気が進まなくても、仲間が集まって書いてみればお互いが刺激となり興味も湧いて長続きするのではないかと。こうした発想が当会発足の契機となったといわれている。

いわゆる「会則」はなく、しばりはきわめて緩やかで「A4一枚に書いて皆の前で発表すること」だけ。パソコンでもペンでも毛筆でも構わない。ただし文章教室ではないのでそれぞれが先生であり生徒である。他人の作品をけなしたり批判したりすることだけはご法度としている(もちろん称賛や共感、

質問などは可)。書くテーマについては全く自由。一時はテーマを決めて書いていたこともあったが、窮屈なので現在はフリーとしている。人生の中での成功談、失敗談、経験した仕事のこと、思い出話、趣味、世相観察、自然や季節についての感興、文化芸術など、要するに何でもよい。必ずしも「エッセイ」の形だけにこだわる必要もない。中には「自分史」として家族に残す試みをした人もいた。

定例会は偶数月(2、4、6、8、10、12月)の第3土曜日に開催しているが、例会終了後は必ず「反省会」(有志参加)を催している。決して「飲むために書いている」のではないが、多少はその要素がないわけではないことも正直に告白しておかねばならない。

全国の稲門会をみても、この種サークルは稀有な存在のようだ。会員は今90代から40代までの男女25名、毎回の出席者は概ね17、8名というところ。入会資格は問いません。活動に参加するとボケ防止になること請け合いです。

(部長・照山 忠利)





## まわり道の青春



河井 洋介

昭和四十五年早稲田商学部卒。こう名乗ると「昭和二十二年生まれですか」とよく言われることがあるが、実は昭和十九年生まれの中派。岐阜の田舎生まれ、岐阜商業高校を卒業と同時に地元の自動車部品メーカーに就職したが、二年で辞めて大学受験を目指して浪人生活に入る。就職期間中に同期入社の大卒者たちと親しく付き合ううちに、何としても大学に行きたくそれも憧れの東京にという気持ちが高じ、父の反対を押し切って会社に辞表を出しました。一年後早稲田に合格したときは、あれほど反対していた父も心から喜んでくれました。こんなわけで三年遅れの大学入学です。三浪ではありません。

早稲田商学部では第二外国語によってクラス分けされ「へ組」になってしまいました。なんとも学問の香りのない名前だとクラス仲間と笑ったものです。だがこの「へ組」で学んだドイツ語がその後この人生に大きく影響したようです。

私の在学中の四年間は大学紛争で荒れていた時期なので休講が多く、憧れて入った大学なのに勉強の方はさっぱりでした。それでも「へ組」で学んだドイツ語と市川ゼミで学んだ「西洋経済史」だけはしっかりとやりました。ノンポリだった自分は空いた時間にバイトに精を出しました。それも割のいい運転手の仕事が多かった。金持ちの医者の子を私立の小学校へ朝夕送迎したり、文京区に多い製本会社の配達業務をやったりしてずいぶん稼いだものです。

四学年になった頃ゼミ仲間は就職活動を始めましたが、自分はドイツ留学しようかと心に決めました。親や友人たちから「留学した後は何をやるのだ、どうやって食っていくのだ」と聞かれてもはっきりと答えられず、まあ何とかなるだろう程度の気持ちでした。親は資金援助は一切しないということで留学を納得してくれようです。当時早稲田文学部に來ていたドイツ人留学生シュルテ・ベルクム君とは在学中から親しくしており、彼の勧めでケルン大学を目指すことにしました。だが、なにせ私費留学なので資金をためる必要があり、昭和四十五年三月に早稲田卒業後、八月に夏にドイツに向けて出発するまでの間ニュージーランド大使館の運転手の仕事をしました。ナンパプレートに「外」のついたプレジデントで走り回りました。我ながら遅しかなと思えます。

ケルン大学では文系の歴史を選択したが、正直言ってまったくついていけませんでした。ケルン大学に入って二年目の頃、日本鋼管のドイツ支店で、ドイツ語の堪能な人を探しているというのでこれに応募して、アルバイトとして支店の総務担当に雇われました。一生懸命頑張りました。その功あつて一年後に日本鋼管本社で正式採用となったのだが、同期入社仲間と比べると三年遅れということになり、早稲田入学の三年遅れを加えると六年遅れのサラリーマン。ずいぶん回り道をしたものです。それでも今振り返って見て、まあ結構面白かったなと思っています。(昭和45年簡)

## 飲み会と麻雀が必須

近江 幸治

私は、昭和42年入学し、下宿は北区十条の賄い付き3畳の薄暗い部屋だった。ここが嫌でたまらず、6か月後に、大学近くに引っ越した。ここも最初は3畳だったが、下宿人同士が仲よくなり、大学のそばだから雀荘がたくさんあって、学部時代はほとんど微マン(とバチンコ)に明け暮れた。2年時に出来た彼女とは、いろんな思い出を作りつつも、5年後に別れた。

この頃は学生運動も激しく、中核派、革マル、民青などが激しく対立し、演劇博物館通りでは、各セクトの前衛部隊が列になり、長い竹竿の先を鋭く削った「竹槍」で、相手前衛部隊と突き合い、負傷者が多数出た。7号館4階の窓から見ていると、戦国時代の戦争さながらの緊迫さであった。大学管理法が国会に提出されたときは、3号館の前の広場は、反対デモの学生で埋め尽くされた。逮捕された学生が、2、30人ほど数珠つなぎになって、戸塚警察署に連行されていく姿は可哀想だった。

学費は2年毎に値上げされ、その度にストライキが起こったので、4年間のうち約1年以上は授業がなかった。このような状況だから、勉強は必然的に図書館での独学となった。

大学院に入ると、ひよんなことから尺八と琴の公認学生サークル「竹友会」に入った。私は尺八部門で、流派は琴古流。師匠は神如道の子息・神如正で(道場は、夏目坂途中の裏にあり、現在の王将あたりの小径を入ったところ)、もっぱら古



典本曲を吹いた。科学技術館ホールで、団体での演奏会に出たこともあった。

サークルの皆は学部学生であったが、隔たりなく付き合ってくれ、とても楽しかった。学生生活の中で、一番楽しかった時間も知れない。

飲み会と麻雀は必須。早慶戦は、神宮球場の回りで徹夜で飲み明かすのが慣例。誰かがコタツを持ってきて、その4つの角にローソクを立てて微マンをした。明るくなったときは、皆の顔がローソクのすすでやけに黒くなっていて大笑いだった。

他のサークルでは、パンツも脱ぎ捨てて素っ裸で走り回っている。ストリーキングなどもいた(その後は禁止となったが)。現在では考えられないほど自由だった。私が日本酒を覚えさせられたのも、このサークルであった。

2019年3月まで約40年間教壇に立ち、学生と共に過ごしてきたが、私の学生時代と現在の学生生活とは隔世の感があるものの、本質はあまり変わっていないように思う(写真は、竹友会志賀高原合宿での朝練風景、左から二人目が筆者)。(昭和46年法)



## ノンポリの青春

野村 洋子



私が本格的に受験勉強を始めたのは高3の秋から。遅れを取り戻そうと一日14時間も必死に勉強したが、苦しくなるとサガンの「悲しみよ、こんにちは」を読んでは南仏海岸に想いを馳せて息抜きした。

その甲斐あって何とか一文に滑り込んだものの、当時は学園紛争の真只中で南仏海岸どころでなくなっていた。文学部のスロープで革マルの男の子に「この社会をどう思うか？」と尋ねられたのもそんな状況だったからだ。私が「何でも社会のせいにするのは不健康だと思ふ」と答えたら、彼はその後の集会で「ノンポリの女の子にそう言われた」と発表したらしい。今振り返ると、私の「ノンポリ人生」はここから始まったのだと思ふ。

入学した頃の生活と言えば、三鷹発の東西線の電車からガラス張りのコーヒーストップにいる彼を見つけると途中下車して、一緒にトースト、ゆで卵、バナナのモーニングを食べてから彼は雀荘に、私は文学部に向かうという毎日だったが、

あまり会話をした記憶はない。

二年生になってからは母の実家への送り迎えを条件に手に入れた車で通うようになり、いつも停めていた文学部の脇の道で「駐禁」取られて困っていると、「ラリー部」と称する三人が警察に案内してくれただけでなく、広いパーキングがある喫茶店にも案内してくれた。以来、そこに車を停めて顔を出すようになり、結構楽しくて、文学部から遠のき本部で過ごす時間のほうが多くなっていた。とはいえ私が専攻した美術史は、勉強というか、美しい物を観る楽しみがあった。

面白いということでは、むしろより厳しく管理しようとする母と心の中で闘っていたような気がする。確かにあの四年間はサンタクロースの袋の中身のように貴重な宝物が詰まっていたような気もするが、「青春時代」の唄の歌詞のように「青春時代の真ん中は胸に棘さすことばかり」だったと今でも思う。

卒業してからは駄目駄目OLを二年足らず。30代からは専業主婦から、経済的に少しでも自立したいと英数塾を始め、25年前に久我山で英会話スクールをオープンした。私が仕事をサボってゴルフに行ったりすると、小学生に「何で先週末なかつたんだよ?」とか詰められる始末。可愛くて堪らない生徒たち、「こめんね」と謝る生活が今も続いている。

遅ればせながら最後にご挨拶。私は生まれも育ちも吉祥寺。それでも練稲に繋げて下さった活気あるテニス部会に感謝です。

(昭和48年文)

## 選択を重ねて

塩田 研太郎



父が学院・早稲田大学出身なので、私は物心がついた時から漫然と早稲田に通うと考えていました。

小学生になり、父は学院・大学時代を通じて社会人リーグのバスケット部に所属していたため、早稲田大学のバスケットの試合を幾度となく観戦に行きました。が、私自身は、全くバスケットに興味がなく、幼稚園時代に父が行った、ヤンマーサッカー教室以来、もっぱら釜本選手がサッカーに夢中でした。

中学生になると、学院は簡単に入学できない事がわかり、進学教室に必死に通いました。サッカーは、暫しお預けです。学院生となり、サッカー部に入部しました。ところが一年生の時、交通事故

に遭い、左脛複雑骨折で、2か月間入院となり、二年生の時、サッカー部を諦め、減多に経験のできないヨット部に入り、以後二年間毎週土日は、三浦半島の先まで合宿に行きました。

大学では、理工学部建築学科であったため、ヨット部は諦め、その後は、勉強とアルバイトに精を出しておりました。大学三年のとき、ロサンゼルスにホームステイに行くために、両国で当時建設中だった新国技館の現場で半年間アルバイトをしました。ちょうどイーグルスのホテルカルフォルニアが流行していた頃で、大変懐かしい思い出です。

大学四年生の頃、同級生たちの素晴らしい才能に圧倒され、同じ設計等の分野では勝ち目がないと思ひ、将来の職業探しを兼ねての旅で日本一周をしました。日本中どここの駅に行っても日通さんがあったので、土地持ちの大企業に勤めれば、駅前市開発等やりたいことができるかと勘違いして、入社してしまいました。

もっともその後、不動産鑑定士の資格も取らせてもらい、良きサラリーマン生活でありました。

三十数年前に練馬稲門会に入会し、近年は若干疎遠気味でしたが、今後は益々参加したいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(昭和61年理工)



## 先祖が残した賓日館など伊勢自慢は尽きない

若松 常正

私は、三重県度会郡二見町（現伊勢市）にて、昭和19年に生まれた。

### ●日本初の海水浴場

二見町史を見ると、明治15年に二見の立石浜に海水浴場が開かれ、2年後の明治17年に二見館前に移されたところがある。時の内務省衛生局長、長与専齋氏が吹米の視察で、海水浴の医療的効果について学んできて、視察途中で二見浦に立ち寄り、適地として強く推薦されたらしい。有名な大磯は、日本初と宣伝しているが、明治18年開設である。

当時の海水浴は、海で泳ぐだけでなく、海水に浸かり神経衰弱や虚弱体質の改善を目的にして、温浴、冷浴の二法ありと書いているので、今で言うタラソ・セラピーである。

### ●賓日館

明治20年、英照皇太后（明治天皇の母上）が二見に逗留されることになり神宮の神苑会が、宿泊施設として賓日館を建設した。

4年後の明治24年、後の大正天皇が皇太子の時に、3週間の滞在をされた。幼少からの虚弱体質の改善に海水浴を奨められたようである。この後、皇室の神宮参拝時には皆様方がここに宿泊されている。どのように東京から来られたのであろうか？ ご学友として、一緒に滞在された、甘露寺受長氏（当時11歳、後の明治神宮宮司）の話では、愛知県の大府まで列車、軍艦にて、鳥羽まで海上を渡り、人力車を連ねて、二見まで来られたようである。



賓日館の正面玄関



賓日館の大広間

### ●二見館の創業

我が先祖の、若松徳平は、ほぼ同時期に賓日館西隣に、「二見館」を移した。料理係、管理人のような立場ではなかったかと思う。明治44年に賓日館の払下げがあり、徳平は

大きな借金を背負って賭けに出て、これを買取った。別館「賓日館」として、事業拡大を図ったのである。

古くからの観光地とは言え、温泉も出ない所で、何を狙ったのか。伊勢の地における「皇室」は売りになると考えたようだ。加えて、温浴、冷浴の海水浴は、フルシーズン、設備の稼働率を上げられると思ったようだ。当時、「海水じいさん」と言われたと記述されている。払下げを受けた明治末期と、昭和の初期に、大改造を行い、賓日館として残されている今の姿に仕上げたのである。

二見館としての経営は、私の兄（徳生・昭和41年早大法卒）が五代目として経営していたが、残念ながら11年前に閉館した。同時に、「賓日館」は当時の二見町に寄付をして、保存を図った。現在、国の重要文化財として保存されている。

### ●二見浦の歴史

二見浦は、伊勢神宮内宮を流れる五十鈴川の河口に当たる。興玉神社脇の夫婦岩があるため、戦後まもなくは新婚旅行のメッカであった。



海岸は清き渚と言われ、興玉神社脇の「夫婦岩」

覗きしてからの神宮参拝は、浜参宮と言われてきた。夏至の時だけだが、梅雨時に当たるので、滅多に見ることはできないが、二つの岩の真ん中から出る日の出を背景に、富士山が重なる姿には神々しいものがある。

天皇の行幸は692年、持統天皇が最初である。この時の旅は、伊勢から志摩までの大旅行であった。

西行法師が妻子を捨てて出家した後、七年間、二见到草庵を結んでいたとある。鴨長明、後深草院二条など文化人が訪れている。義経の郎党になった、伊勢三郎が住んでいたとも言われ、街のすぐ後ろの山は。通称「三郎山」と言われている。

伊勢神宮を含め、小津安二郎、市川崑、高畑勲などの伊勢出身の映画監督など、もっと多くの故郷自慢をしたいのだが、紙数の関係でここまでとする。（昭和41年政経）



# 石井建設株式会社

代表取締役 石井弘美（昭和57年理工）

〒165-0031 東京都中野区上鷲宮4-10-3 TEL:03-3999-1361 FAX:03-3999-1328



## 稲門祭2022

早稲田大学校友会の最大イベントである稲門祭は10月23日(日)、3年ぶりに対面の形で開催されました。当日は汗ばむような好天に恵まれ、ホームカミングデーに招待された校友の皆さんをはじめ参加者の人波がキャンパスを埋め尽くしました。

練馬稲門会は構内にテント出店し、当会の活動内容のPRと他の稲門会との交流に努めました。構内での飲食が禁止されている中で、練馬パンの販売を行いました。用意したパンは売れ行き好調で昼前には完売となりました。

練馬稲門会の参加者20名はイベント終了後、高田馬場駅前に移動し稲門祭の成功を祝して乾杯しました。



## ローズガーデンコンサート

10月30日(日)、光が丘ローズガーデンにて早稲田大学交響楽団弦楽四重奏団による「ローズガーデンコンサート」が行われました。昨年は雨のため屋内での演奏でしたが、今年は抜けるような秋晴れの下、芝生広場で咲き誇る秋バラの芳香につつまれる中に心地よい旋律が響き渡り、美しい音色は特設ステージを取り囲んだ350人の聴衆を魅了、男女4人の楽団には盛んな拍手喝采が送られました。

このイベントは新春のニューイヤーコンサートの先触れとなるもので、当日参加された方の中には早速そのチケット予約を申し込まれた人もいたようです。

午前の部の演奏終了後、練馬稲門会有志30名は広い光が丘公園の一角の芝生に陣取り、持ち寄った酒肴で大いに懇親を深めました。



## 練馬こぶしまラソン

練馬稲門会は来春に行われる「練馬こぶしハーフマラソン2023」に走路補助員のボランティアとして参加します。

日時：3月26日(日) 7:00～9:30  
場所：光が丘公園周辺  
担当：走路第8区(スタート地点に近いところ)  
人員：11～20名程度

なお、活動終了後(10:00ごろ)光が丘芝生公園にてお花見会を行う予定です。

ボランティア以外の皆様もぜひこのお花見会にご参加ください。

## 練馬稲門会第45回総会のご案内

練馬稲門会は、来年創立45周年を迎えます。これを記念して、第45回総会は、

令和5年7月9日(日)

リーガロイヤルホテル東京

にて開催いたします。  
会員の皆様には万障繰り合わせの上ご出席賜りますようお願いお知らせいたします。  
詳細につきましては、別途ご連絡のことといたします。

## いしざき内科

富士街道沿い 石神井庁舎南

石神井町3-30-20 TEL.(03)6913-3925

胃内視鏡検査  
大腸カプセル内視鏡検査  
超音波(腹部・甲状腺その他)

(賛助会員:石崎 淳朗)

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行:広報チーム

照山 忠利 鈴木 奎三郎 岡田 吉郎 橋口 奈保 富塚 昇

発行所:〒176-0014 練馬区豊玉南3-24-18 国産自動車交通本社ビル 練馬稲門会事務局 TEL.070(3526)4179 FAX.03(4243)2759